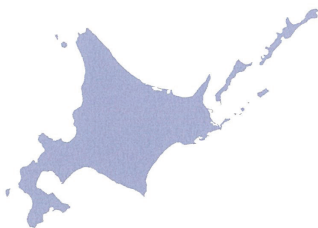


---

一般社団法人 北海道電業協会

---

# 50周年記念誌



---

魅 力 あ る 電 設 工 事 業 を 目 指 し て

ごあいさつ

## ～おかげさまで半世紀～

一般社団法人 北海道電業協会創立 50 周年

(一般社団法人 日本電設工業協会北海道支部創設 60 周年)

一般社団法人 北海道電業協会 会長  
一般社団法人 日本電設工業協会 北海道支部 支部長

吉本 浩昌



北海道電業協会は、昨年、前身である「北海道電設業協会」が社団法人として許可をいただいて、おかげさまで半世紀を迎えることができました。合わせて、それに先立ち発足していた日本電設工業協会北海道支部も創設 60 年を迎えておりました。

この記念すべき節目を迎えることができましたのも、これまでの永年にわたる関係各位のご指導とご支援、諸先輩の皆様のご努力と後進の指導、また、会員各位のご理解とお力添えの賜物であります。これまで協会を支えていただきました全ての皆様により感謝するとともに、厚くお礼申し上げます。

当協会は、昭和 37 年に「北海道電設懇話会」として発足し、昭和 42 年 12 月に「社団法人北海道電設業協会」として許可をいただき、昭和 46 年 3 月に「社団法人北海道電業協会」と名称変更をいたしました。その後、新公益法人制度の施行により平成 25 年 4 月に現在の「一般社団法人北海道電業協会」に移行し、今日を迎えております。この間、「日本電設工業協会北海道支部」との一体運営を心掛け、電気設備工事業界としての主体性の確立と社会的地位向上に努めてまいりました。

当協会が 30 周年を迎えた 1997 年以降、今日までの 20 年を振り返りますと、まさに激動の時代でした。バブル崩壊後の平成不況、中央省庁再編に伴う北海道開発庁などの国土交通省への統合、財政構造改革による公共事業費の大幅な削減等により長きにわたり厳しい経営環境にさらされました。その後も経済

のグローバル化の進展の中で、リーマンショックを発端とした世界同時不況など世界で生じた様々な問題が日本経済や雇用の面に大きな影響をもたらしました。更には、未曾有の大地震であった東日本大震災をはじめ国内各地で自然災害が多発し、「安心・安全」の意識の高まりと防災、減災に向けたインフラ対策の重要性が認識されました。復興事業を契機に建設業の必要性も再認識されつつあり、品確法、入契法、建設業法のいわゆる「担い手 3 法」の改正でインフラの品質確保や就労環境などの改善も期待されているところです。

この間、当協会は、会員相互の信頼と結束のもと所期の目的を見失うことなく、課題の克服と「電気工事業の技術向上に関する調査研究」や「人材の確保・育成」など所要の事業に取り組むとともに、業界を取り巻く環境を見据え、2003 年にはそれまで慣れ親しんだ「北海道電設業会館」の売却、2004 年からは組織運営の見直しとスリム化、会費の負担軽減策などを実行に移してまいりました。幾多の困難に立ち向かい協会を支え、将来へ道筋をつけていただいた諸先輩や関係者の皆様にあらためて敬意を表します。

今日、電気設備は重要な社会基盤として、様々な面で国民生活を支えており、高度技術化・情報化社会の一層の進展に伴い、電気設備工事の専門的技術の重要性は、ますます高まっていくものと考えます。

当協会は、北海道における開かれた電気設備工事業者の団体として、より一層の経営基盤の強化と技術力の向上、優れた人材確保・育成を図り、発注者の信頼に応えるとともに公正かつ秩序ある環境づくりに向けてその役割を果たしていきたいと思っております。会員相互の信頼と結束をより一層強め、北海道のライフラインの一翼を担う誇りをもって、広く道民から信頼される団体を目指して活動を展開していく所存です。

関係各位におかれましては、当協会の運営に今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この記念誌は、創立 50 周年という節目を機に、当協会のあゆみの一端を綴ったものです。ご高覧いただければ幸いに存じます。

結びに、会員の皆様、関係各位の皆様のご今後ますますのご多幸とご発展を祈念申し上げご挨拶とさせていただきます。



## 目次

### C o n t e n t s

ごあいさつ	2
■ 祝辞	5
■ 元役員回想記	11
■ 地区協会祝辞	19
■ 座談会	31
■ 道内の主な施工実績	39
■ 資料編	53
編集を終えて	68

## 祝 辞

国土交通省 北海道開発局長

和 泉 晶 裕 様

北海道知事

高 橋 はるみ 様

一般社団法人 日本電設工業協会

会 長 後 藤 清 様

一般社団法人 北海道空調衛生工事業協会

会 長 池 田 薫 様

北海道電気工事業工業組合

理事長 小野寺 涼 一 様



## 祝 辞

国土交通省 北海道開発局長 和 泉 晶 裕

一般社団法人北海道電業協会が創立50周年を迎えられましたことに心よりお慶び申し上げます。

貴協会は、昭和42年の創立以来、電気工事業に関する技術の向上、技術者の育成など、多岐にわたる事業を積極的に展開され、北海道の電気工事業界の健全な発展に多大な貢献をされてこられました。この間、貴協会の運営にご尽力されました関係各位並びに会員の皆様に対し、深く敬意を表す次第です。

北海道開発局では、その時々々の国の課題の解決、また、北海道の活力ある発展の推進役として各事業部門が一体となって、社会資本整備を総合的に進めてきております。特に8期目となる北海道開発計画では、北海道の強みである「食」と「観光」を戦略的産業として育成するとともに、豊富な地域資源とそれに裏打ちされたブランド力など、北海道がもつポテンシャルを最大限に活用することにより、「世界の北海道」を目指しています。また、アイヌ文化の復興等のナショナルセンターとなる博物館をはじめとする民族共生象徴空間の施設については、2020年4月のオープンに向けた整備を進めております。

電気工事業をはじめ、建設業は、地域の活力の基となる経済や雇用を支える基幹産業であるとともに、国民の生命・財産・暮らしを守る社会資本整備の担い手であり、災害時には迅速な対応により安全を確保する地域の守り手として、重要な役割を担っておられます。この中で電気設備は、社会基盤を支えるための電源供給はもちろんのこと、高度情報化による多様化・複雑化するニーズへの対応、LED照明化や太陽光発電設置といった地球温暖化対策など、その重要性はますます高まっております。

一方で、若年入職者の減少と高齢化が著しく進行しており、優秀な技術者や技能労働者の確保・育成は喫緊の課題となっております。このため、北海道開発局では、北海道の建設業及び建設関連業について、「適正な工期設定」、「適切な賃金水準の確保」、「週休2日の推進などによる休日確保」など、労働環境の整備及び技術者・技能労働者の確保・育成やその活躍に資する政策を推進するため、働き方改革推進本部を立ち上げました。貴協会におかれましても、50年間の経験と実績を踏まえ、より一層、活発な事業活動を展開され、担い手の確保・育成、生産性の向上などに積極的に取り組んでいただくことを期待しております。

貴協会並びに会員各位のより一層のご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



## 創立50周年を迎えて

北海道知事 高 橋 はるみ

北海道電業協会が創立50周年の節目の年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

貴協会は、昭和42年の創立以来、半世紀の長きにわたり電気工事業の健全な発展に尽力され、また、経済活動や日常生活に欠くことのできない電気設備の整備や維持に貢献してこられました。吉本会長をはじめとする歴代役員、並びに会員の皆様の熱意とご努力に、深く敬意を表します。

また、電気事業における技術力向上のため、技術革新への対応や情報の提供に努められ、地域社会の安全・安心に向けて、自治体と防災協定を締結されているなど、本道の発展に多大な貢献をされてこられましたことに、心から感謝を申し上げます。

今、北海道は、地域産業を支える技能の継承や、技術者のキャリア形成への支援、若年層のものづくり産業に対する理解促進など、次の世代を担う産業人材の育成・確保が重要な課題となっております。

こうした中、貴協会におかれましては、就労者の技術研修はもとより、工業高校や専門学校などの技術系教育機関との連携を通じて、生徒に電気事業についての素晴らしいPRするほかインターンシップの実施、最先端設備の現場見学会などを積極的に行い、電気事業の技術力向上や将来の電気技術者の確保にも力を注がれており、電気工事業界のさらなる発展と次世代への継承に引き続きご尽力いただきますようお願い申し上げます。

道といたしましても、公共事業予算の確保や早期発注に努めるとともに、北海道働き方改革推進方策に基づき、多様な人材の活躍や就業環境の改善及び人材育成などによる生産性の向上などを推進しているところであり、今後とも、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、北海道電業協会のさらなるご発展と、会員皆様のますますのご活躍、ご健勝を祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 一般社団法人 北海道電業協会 「創立 50 周年」祝辞

一般社団法人 日本電設工業協会  
会長 後 藤 清

一般社団法人北海道電業協会が創立 50 周年を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会は、当初昭和 37 年に北海道電設懇話会として発足されましたが、その活動実績のもと、昭和 42 年に北海道知事から許可を受け社団法人として創立され、以降半世紀にわたり名実ともに北海道を代表する電気設備工事業界団体として、業界の発展に向けた協会活動を進め、電気設備工事業者の主体性の確立と社会的地位の向上に大きく貢献してこられました。また、昭和 42 年にご加入いただいて以来、団体会員として当協会の活動にも多大な寄与をいただいております。これまでの貴協会及び初代 泉 会長から現九代 吉本 会長を始めとする歴代役員及び会員各位の御尽力と御苦労に深く敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます次第です。

現在、わが国は、少子高齢化社会の到来と労働者人口の減少を前に、産業を支える担い手の確保と労働者人口の減少を補う、働き方改革や生産性の向上への論議が深まっております。電気設備工事業を含む建設業界においても、若年入職者の減少・就業者の高齢化がこのまま進み、担い手の確保や人手不足が続けば、施工体制の弱体化はもとより、産業自体の継続が困難となるのが懸念されます。

このような状況を踏まえ、日本電設工業協会では、協会活動の重点的な取組を取りまとめたアクションプランを第一に「担い手の育成及び確保と生産性の向上」を掲げた活動を展開しており、都道府県協会が取組む人材確保に向けた学生や教育機関関係者を対象とした現場見学会や意見交換会の開催支援のほか、平成 23 年に創設以来、会員企業に活用いただいておりますインターンシップ推進助成金制度の浸透等を通じて、業界が全体として発展する活動を支援するとともに、現場で長時間労働の是正や魅力ある電設業界への発信を通じて「夢と生きがいのある電設業界」を目指した協会活動を進めております。

貴協会では、道内の技術系学生・教育機関関係者との現場見学会・意見交換会の開催、会員企業を対象とした各種講習会の開催などを積極的に実施され、また、札幌市との平成 26 年の防災協定の締結など、業界の地域貢献に取組まれておられますが、これらの活動が従来にも増して充実発展されることを期待いたしますとともに、貴協会と日本電設工業協会の相互の絆が、今後、一層深まっていくことを願っております。

結びに、北海道電業協会並びに貴協会の企業会員及び団体会員の益々の御活躍、御発展を祈念申し上げて、一般社団法人北海道電業協会創立 50 周年のお祝いの言葉とさせていただきます。



## 一般社団法人 北海道電業協会 創立 50 周年をお祝いして

一般社団法人 北海道空調衛生工事業協会  
会長 池 田 薫

一般社団法人北海道電業協会が創立 50 周年を迎えられましたことを心からお喜び申し上げます。貴協会は昭和 42 年に設立されて以来、激変する時代の要請に即応しつつ地域社会の活性化と公共の福祉の増進、及び産業の振興に寄与することを目的に活発に事業を展開され、電気設備業界の発展に貢献してこられました。

これまで協会運営と事業活動に携わってこられた、歴代の会長・役員様や会員の皆様方に対して心から敬意を表する次第であります。

私達を取り巻く経済環境は、アベノミクスが打ち出されて 5 年を経過し、公共投資の増加、景気回復に伴う民間投資の拡大により、企業業績や雇用環境などの経済指標が改善し、緩やかな回復基調が続いております。また、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック開催の決定により、直接投資のみならず、間接的な開発需要等が発生することが想定されており、建設市場全般の拡大が期待されております。

他方、需要の地域的偏在や需要過多による建設費高騰、人手不足なども危惧されており、こうした状況から直ちに採算性、収益性の上昇に繋がっていないのが実態です。

こうした中、政府は昨年 3 月に「働き方改革実行計画」をまとめ、早ければ今国会でこのことを盛り込んだ労働基準法改正案の成立を目指しております。内容は他産業では当たり前になっている週休 2 日制の推進、罰則付き時間外労働の上限規制の導入など長時間労働の是正に関するものが趣旨となっています。

このことは設備業界にとって現在、建築生産システムや商慣習から長時間労働が発生しやすい構造となっており、高いハードルと捉えております。

また一方では、これまで現場を支えてきた技能者の高齢化・リタイアに伴い技能継承が難しく、若者の建設業ばなれ、ものづくりへの興味の低下も著しく、少子化の流れで労働人口は減少しており、担い手の確保・育成は最大の懸案となっております。

このようなことから私達設備業界は、若者にとって魅力ある産業となるよう、就労環境の改善を業界全体で取り組み、人材が集まる産業を目指す必要があるものと思います。そのためには、各設備工事会社の経営が一層安定化することが重要であり、これまでも貴協会と共に発注機関である国や北海道に対し要望活動や意見交換を行ってまいりましたが、今後も引き続き連携しながら、適切な工期設定や工程管理、分離発注の継続、確かな見通しのもとでの安定的な事業量の確保、発注・施工時期の平準化など、業界が抱える諸課題を集約し、関係機関への要望活動に取り組んでまいりたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。

貴協会におかれましては創立 50 周年を契機として、これまでの輝かしい実績と伝統を継承しつつ、新しい時代に適応した魅力ある活動を展開され、今後ますますご発展を遂げられることをご期待いたしまして、お祝いのことばといたします。



## 創立 50 周年を祝して

北海道電気工業業工業組合  
理事長 小野寺 涼 一

この度、一般社団法人北海道電業協会が創立 50 周年を迎えられましたこと、心からお祝いを申し上げます。

貴協会は昭和 42 年創立以来 50 年の長きに亘り、歴代役員をはじめ会員の皆様の多大なる努力により、北海道における電力の安定供給を支える電気設備を建設し、北海道の産業・経済の発展並びに道民の安全で快適な生活に大きな貢献をされてきたことに、電気工業業に携わる者として深甚なる敬意を表すところ です。

さて、今後 5 年先、10 年先の電気工業業界の未来を思う時、第一に、北海道において低廉で安定な電力供給が確保され、これにより経済活動が活発化し、道民の皆様の生活にもその効果が表れ、消費活動が活性化しているようであってほしいと思います。

しかし現実には、泊発電所の長期停止により日本一高い電気料金が長く続いており、北海道経済並びに道民の皆様の生活に多大な負担となっています。

この状況から、一刻も早く抜け出すためには、原子力規制委員会による泊発電所の安全審査が速やかに進み、低廉で安定な電力供給が少しでも早く実現されることを切に願うところ です。

第二には、電力小売りの全面自由化や発電電の法的分離等の電力システム改革への対応や電気工業業界内の課題についても対応していく必要があります。

電気工業業界内の大きな課題には後継者不足があり、これに対処していくために、いかに若者を我々の電気工業業界に誘うかが挙げられると思います。その取組みの一つとして、若者が我々の電気工業業界への入職を希望するような、魅力のある電気業界理解促進活動を青年部が主体となって実施しています。

一例として、平成 28 年 9 月に 32 年ぶりの開催となった第 1 回電気工事技能競技北海道大会を札幌市で開催し、この大会には地元の電気系高校の生徒と先生をお招きし、電気工事の実際を見学して頂いたことに続き、今年 9 月開催予定の第 2 回電気工事技能競技北海道大会には、電気系高校の生徒にも出場して頂くよう計画しています。

更に最近では、当組合の青年部が中心となって電気系高校に通う生徒の保護者に対して、卒業後の就職先候補となるよう電気工業業界の多様性や業務内容、魅力について説明した後、座談会形式で意見交換会を行なう場を創り、お互いが求めることについて率直に情報交換・意見交換を行なうなど、将来、生徒たちが我々の電気工業業界の門を叩いて頂けるような機会を創る活動を進めています。

このような取り組み行なうことにより、電気工業業界にあこがれて入職する若者が増えてくれることを切に願うところ です。

終わりになりますが、北海道電業協会が今後益々発展され、会員各位のご健勝・ご隆盛を心からご祈念申し上げるとともに、電気工業業に携わる団体として、道民の皆様が低廉で安定な電気を利用して快適な生活を送られ、同時に道内の経済と産業の安定的発展のため寄与されることをお願い申し上げます、お祝いの言葉といたします。